

ワケ カタチには理由がある(114)

Shape follows Function
& Taste

~MD312 フラマン(Flamant)



1947年に初飛行した、ダッソー社が作ったフランス空軍の操縦訓練機(コクピット天井に、キャノピーを覆うカーテンが見えます)及び地上攻撃機です。終戦から2年しか経っていないのに、前脚式で、胴体断面が円形という時代を先取りしたフォルムを採用したフランス人の感覚に驚かされます。エンジンはアルグス AS410(ルノー12S)という、大戦中も Fw189 偵察機などに使われた 600 馬力の空冷のインラインエンジン(空冷で直列は珍しい)を使用しており、プロペラ下のエアインテイクから、倒立したエンジンシリンダが覗くことになります。胴体が円形断面とはいいいながら、この非力なエンジンではキャビンの与圧はされていなかったと思います。余談ながら、胴体上下の鉤型アンテナ(矢印)は多分航法用だと思うのですが、「帰ってきたウルトラマン」に登場するブラックキングの角そっくりwです。この角、本アンテナと同じく実はナックル星人が操るための受信装置だったと思うと楽しいですw。



【模型について】

チェコのアズール(Azur)社の 1/72 のインジェクションキットです。上掲した側面写真を見てもらうとわかるのですが、とにかくテールヘビーで、機首のレドームにめいっぱい、釣り用の錘を詰め込んで尻もちつくの回避させています。(中川裕幸 2025年2月)